

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

JR柳ヶ浦駅周辺地区

令和7年1月

大分県宇佐市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	駅舎及び駅前広場利用者満足度	%	21	60	76	確定 見込み	○ ○	あり なし	82	R6年8月,10月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	事後評価時は駅前広場が工事中であったため、まちおこし室と地域交流室に限定した満足度調査とした。フォローアップ調査では、駅前広場も含めたものとしたが、R6.4月からまちおこし室を総合案内所として開所したことに加え、駅前広場でのイベント開催や飲食店の露店販売が多く行われたことが満足度の向上に繋がったと考えられる。
指標2	JR柳ヶ浦駅乗降客数	人/年	465,415 (H24～H28 5年平均)	465,400 (H30～R4 5ヶ 年平均)	398,288 (H30～R4 5ヶ年平均)	確定 見込み	○ △	あり なし	399,432 (H30～R5 6ヶ年平均)		△	ライフスタイルの変化による	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	コロナ禍の影響により、鉄道利用者が大きく減少し、目標値を達成することはできなかった。しかしながら、乗降客数は徐々に回復傾向にあり、引続き整備した駅舎や駅前広場を活用し、JRとタイアップした観光誘客キャンペーン等を実施することで、目標値の達成を目指す。
指標3	駅周辺での市民活動回数	回/年	4	12	19	確定 見込み	○ ○	あり なし	50	R6年4月 ～R7年1月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	事後評価時は駅前広場が工事中であったため、市民活動の場所がまちおこし室に限られたものである。フォローアップ調査では、駅前広場も含めた活動回数となっており、市主催イベントのほか市内の飲食店による露店販売など9か月間で30回もの市民活動が行われた。これは、市HPや公式SNS等で駅前広場の情報発信を行ったことが利用促進につながったものと考えられる。今後も地元住民らと駅前空間の活用について検討を重ねながら駅周辺の賑わい創出を図っていきたい。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
					評価値	見込み・確定の別		達成度				1年以内の達成見込み	理由		改善策の方向性
その他の数値指標1	「JR柳ヶ浦駅周辺地区デザイン検討会議」による継続的な事業進捗の確認	回	D会議7回 設計WG会議9回		D会議3回 設計WG19回	確定 見込み	○						☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2	地域の担い手と次世代の担い手たちとの活動や連携	回	0		13	確定 見込み	○		14	R6年12月		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	駅整備と並行して、駅リニューアル後の活用方法を見据えた駅整備となるよう、地域や次世代の担い手たちとWSを行ってきた。 駅リニューアル後も引き続き、駅前空間の活用策について意見を出し合う「憩いの広場の楽しいを考える会」を地元団体や高校生らと交え開催。意見を集約し、駅周辺の賑わい創出に繋がる活用方法を検討するとともに地域と次世代の連携を深めていく。		
その他の数値指標3						確定 見込み						☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる			

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	リニューアルした駅前空間の利活用促進の維持管理	既存建造物活用事業で整備したまちおこし室については、R6.4月から駅総合案内所として開所し、観光案内や地場製品の販売を行っている。また、管理者に待合室やトイレの清掃等も併せてお願いし、維持管理にも努めている。駅前広場については、行政主導でイベントの開催やイルミネーションの点灯など駅前空間の利活用を図った。	駅管理者や地元まちおこし団体等と連携を図り、継続してイベント開催や清掃活動等に取り組む必要があるが、駅管理者については運営がまだ軌道に乗らない不安があり、駅前空間において活動してきた地元団体においても高齢化による活動の硬直化がみられるなど課題は多い。 また、市民活動を活性化させるため、広場利用の促進PRや利用者への運営支援も必要である。
	地域住民と来訪者との交流促進	・駅総合案内所を開所 ・市主催イベント(10月ハロウィンイベント、12月クリスマスコンサート)開催	駅総合案内所を開所することで、観光案内や地場製品のPRなどを通して来訪者との交流が生まれている。また、市主催イベントに地元高校生や地域住民が準備段階から参加しており、イベント参加者との交流促進が図れている。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	駅前空間における安心・安全な環境の形成	駅周辺における道路ネットワークの形成(市道柳ヶ浦中央線の付け替え整備による現道部分の安心・安全な環境の形成))	工事完了後は、自動車等の通過交通を現道から付け替えた道路に誘導し、現道部分はまちなかウォークラブル推進事業等を活用するなど歩行空間の整備も検討課題である。
	駅前空間における適正な土地利用の誘導	駅前空間の土地有効活用及び賑わいづくりに向け、駅利用者や地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査を実施。	柳ヶ浦駅や駅前空間の活性化に關しての自由記入欄には、コンビニや飲食店、ホテル等商業施設が必要だとする回答が多くあり、駅を中心とした新たなまちづくりへの期待が大きいことが伺えた。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
都市基盤整備による良好な居住環境の整備	駅周辺地区の下水道整備を実施することで居住環境を整え、ホテルやアパート、商業施設の誘致につなげる。	令和3年度～	下水道整備を実施中であるが、今後は並行して、民間事業者による都市機能の整備を促進するための周知や、関係部署の施策・事業との連携を図るなど誘導施策の取組を進める必要がある。
利用者ニーズに応じた持続可能な公共交通体系の構築	鉄道および路線バスの運行については、現行サービス水準を維持・確保するため、関係機関に働きかけるとともにインバウンドなど回復傾向にある観光者向けに観光レンタサイクルを開始する。	観光レンタサイクル(令和7年度～)	R6.4.1～柳ヶ浦駅発の路線バスが利用者の減少により減便となっている。早急に居住環境の整備を図り、駅周辺地区の人口密度の維持・増加に努め、路線バスの利用促進に繋がる施策も必要となっている。また、まちづくりや観光振興等の地域戦略と連携し、利用者ニーズに応じた持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。
既存ストックの有効活用	駅前広場西側の利用用途が定まっていない公有地については、イベントや施設用地としての活用を検討	未定	駅前広場を活用したイベント等を開催するにあたり、若干手狭なため、駅前広場西側を活用したいが、現在、イベント時の関係者駐車場としており、代替駐車場の確保が必要となる。
歩きたくなる市街地環境の整備	市道柳ヶ浦中央線の付け替え整備が完了後、現道部分はまちなかウォークラブル推進事業等を活用し、歩行空間の整備を検討	未定	人口減少や少子高齢化が進む中、駅周辺の魅力を向上させ、賑わいを取り戻すよう、歩道整備のみに留まらない整備計画が必要である。